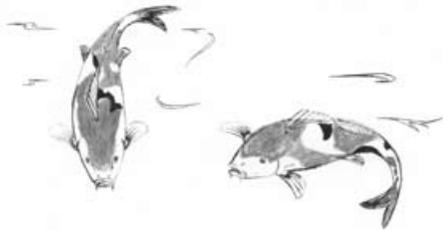

慈 恵



令和元年 No.69



冬

宗教法人 慈 恵 院 付属 多摩犬猫霊園

鑑賞



狸に小は盤

泥舟

あらぬ我身も

つち乃船

こきい堂た左さぬ可が

可か知ちくくのや満ま

高橋泥舟でいしゅう

幕末の幕臣。槍術に秀で、国事に通じ、講武所教授となり、一八六三年（文久三）新徴組を統率。鳥羽伏見の戦後、恭順謹慎説を主張。江戸城明渡し後は徳川慶喜を護衛。山岡鉄舟・勝海舟と共に幕末三舟と称。（一八三五—一九〇三）

盤珪から贈られた硯

かつて大石良雄は盤珪和尚に参禅したことがあった。盤珪は大石に向かい、「不生」を説いたが、大石にはそれが理解できなかった。その後も参究を続け、ある時わずかながら「不生」の意味をさとった大石は、ただちに盤珪に参じ、その所見を述べた。今度は盤珪もその見解をみとめた。

その時、ちょうど盤珪のそばに一つの硯があった。盤珪和尚、これを示して、

「これ、この硯は西行法師ご自作といわれるものでござる」

と説明した。ところが大石が、

「いや、そうではござらん。それは未だ西行が生まれざる前に、この大石が作った硯でござります」

とたたみかけると、盤珪和尚は微笑して、

「さらば、この硯も出たところに返るがよろしかろう」

と大石にその硯を贈った。大石も辞せず、拝受して帰った。

浅野家に珍藏する硯がそれで、硯の裏にその消息が書かれている。

「禅門逸話集成」より

大石良雄 (内蔵助)

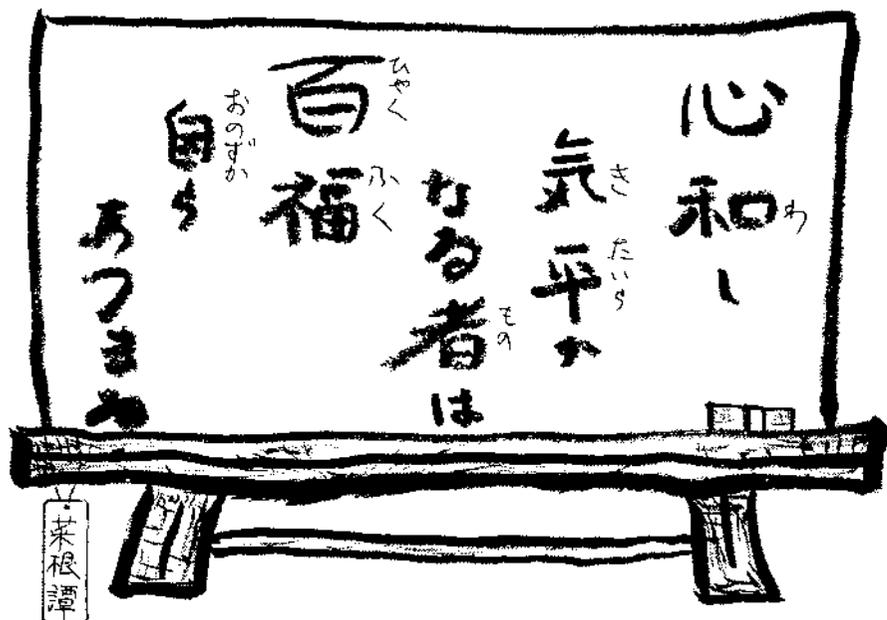
(一六五九〜一七〇三)

浅野家家老、盤珪禅師に参ずるなど
禅要を学んだ。

盤珪永琢 (二六二二〜一六九三)

臨済宗、播磨の人。赤穂随願寺の雲甫について出家、
諸方歴参のち二十六歳で大悟、不生禅を唱導した。
美濃玉籠庵、赤穂興福寺などに住した。慶安四年、長
崎に道者超元が来朝すると、行ってその指導を受けた。
のち伊予に遍照庵を創建、浜田の龍門寺を再興し、妙
心寺に出世した。

掲示板





悲しく辛いお別れ

小平市 小林 みち子

昨年三月二十五日、羽田空港まで迎えに行き私達の家族となった繁殖引退犬五歳、誕生日も不明のコーギー女の子をマロンと名付け、迎えた日を誕生日とした。愛くるしい大きな眼で私達を見てすぐに家族に馴染んでくれた。不妊手術されお腹に糸のついた状態だったが居間を走り回る元気な子だった。抜糸後、初めて外に出した時、全く動かず散歩道で堅まってしまった。家の横の通路で散歩の練習を三日間、やつ

と四日目には散歩が出来る、慣れたら私達が引っぱられる速さの散歩。年二回の健康診断も太鼓判を押される程健康だった。

我家に来てからマロンをつれて車で旅行に連れて行ったりドックランで他の犬と遊ばせたり今までゲージ生活しか知らなかったマロンにとっては初めての事だらけだったようだ。家族にとってもマロンがいてくれる事が毎日嬉しくて愛しくて何よりもマロンは私達の心を癒してくれる存在だった。息子が遅くに帰って来ても戸が開くと半分寝ぼけ眼でも迎えに出る。けなげなマロン。しかしマロンや私達に辛い出来事が起こるなど思ってもみなかった。五月九日血尿が始まりCT他検査でマロンが膀胱のリンパ腫と判明、信じられなかつ

た。四月二十日水上^{みなかみ}に行つた時も飛び廻って遊んでいたのに。通院が始まったが急に後足が立たなくな^テり診てもらおうとT細胞型という悪性リンパ腫、助かる可能性が少ない。緊急病院に入院し抗ガン剤やステロイド投与注射をされても「キャン」とも言わず耐えていたマロン。毎日マロンの容態を見に病院へ行った。担当の医師も手を尽くしてくれていたが、為す術もない早進行リンパ腫、前日懇願し、七月十六日夕連れ帰った。マロンは安心したようにベットに腹バイになり、大好きなミルク飲みお水を飲み、その二時間後、家族に看取られ眠るように逝ってしまった。マロンへの最後のギフト。私達の思い。ゲージの中では死なせない。マロンに触れ「ありがとう」って。



マロン6才3ヶ月

黒猫ハコが運んできたこと

稲城市 前川 絵里(60)

私が幼少の頃は実家で犬や猫を飼っていましたが、結婚して実家を離れ、子育てに追われていた時期はペットを飼うどころではありませんでした。しかし子育てがひと段落し、身辺が落ち着いてきた頃、急に寂しさを感ずることが増え、またペットと一緒に生活したいと考えるようになりました。そんな時に出会ったのが黒猫のハコでした。久しぶりに動物の世話をするので人に慣れた大人の猫

ちゃんならと思いい、ある保護施設のホームページを見ていました。ハコは飼い主に捨てられて千葉県にある保護施設で暮らしていました。その施設のホームページには推定10歳と記されていましたが、どことなくあどけなく、幼い印象を受けました。洋猫の血が入っているのか、金色の目で手足が短い、ぼっちょりとした猫でした。綺麗な目の色とアンバランスな体型に一目惚れしてすぐに施設まで会いに行きました。施設の方がマイペースだけどどいたずらもしない良

い子と言っていたのでその日のうちに家族に迎えの手続きをして、次の週末に引き取ることに決まりました。それまでにハコに必要なベッドや首輪、おトイレやフード等ペットショップを巡りながらあれやこれや考えながら買い揃えた時間は久しぶり

りに心が浮き立ち、とても楽しいひと時でした。ハコも新しいお家にすぐに馴染んでくれました。初日こそ戸惑いながら家の中を歩き回っていましたが、すぐに持ち前のマイペースさを発揮してご飯もすっかり完食し、お腹もいっぱいになったら四股を投げ出して寝てしまい、もう何年もこの家で過ごしてきたのではな

いかと思うくらい堂々とした態度でした。大人の猫ちゃんなのでやたらと飛び掛かったり、甘えてきたりすることはありませんでした。常に近くにおいて癒してくれました。とても食欲旺盛でいつも残さず食べるのでくびれの見当たらない豊満なボディになってしまったハコは手足が短いのも手